

令和4（2022）～令和5（2023）年度  
自己点検・評価報告シート

令和6（2024）年12月  
東京音楽大学

○自己点検・評価の状況

実施体制：自己点検・評価委員会及び事務局が協力して自己点検・評価を実施し、内部  
質保証推進委員会に結果を報告する。

実施方法：「学校法人東京音楽大学第Ⅱ期中期計画 I. 東京音楽大学」に掲げられた事  
業計画ごとに取組内容を記載し、進捗状況を踏まえた評価点数を示す。

○自己評価基準

評価点数	評価基準（進捗状況を踏まえた当該年度としての評価基準）
5……達成	計画以上の成果が達成されている
4……順調	計画通りの順調に実施されており、十分に成果が認められる。
3……ほぼ順調	ほぼ計画通り順調に実施されており、概ね成果が認められる。
2……遅れ	一部計画の実施に遅れがある。
1……要改善	計画の実施に改善が必要である。

1. 大学の使命・目的

中期計画	
(1) 社会の変化等への対応	① 急激に変化する社会や価値観が多様化する世界において、本学の存在意義並びに基本的使命・目的を明確にし、本学が目指すべき方向性や将来像を内外に力強く発信していく必要がある。このため、本学の「建学の精神と理念」「教育目的」及び「東京音楽大学ビジョン」等を、音楽文化の振興に対する本学の使命を現代的な視点から適宜検証し、整理する。(総務課・教務課)
(2) 社会への周知と理解の向上	① 「建学の精神と理念」、「教育目的」、「東京音楽大学ビジョン」を踏まえた音楽文化の振興に対する本学の社会的使命・目的を内外に周知し、教育研究活動への理解と協力を求めていく。(総務課・教務課)
(3) 第Ⅱ期中期計画への反映	① 「建学の精神と理念」、「教育目的」、「東京音楽大学ビジョン」の検証結果を、第Ⅱ期中期計画の推進とともに適宜反映していく。(総務課)
(4) 三ポリシーへの反映	① 「建学の精神と理念」、「教育目的」、「東京音楽大学ビジョン」を、社会の変化に対応して適切に三ポリシーに反映する。(教務課・入試課)
(5) 教育研究組織等の点検評価、改善	① 「建学の精神と理念」、「教育目的」、「東京音楽大学ビジョン」を達成するため、教育研究組織及び事務組織の継続的な点検評価、再編等を進める。(総務課・人事課・教務課・研究支援室)

項目	中期計画にかかる取組内容				
(1)-①	2022 年度に教学マネジメント会議を設置し、「教育目的」(学則第 2 条)、「教育目標」(学則第 2 条の 2) 及び三ポリシーを見直すことを決定し、課題点等を検討した。2023 年度には教学マネジメント会議の下に教育目的の再検討を目的とした小委員会を設置し、見直し作業を進めた。				
	自己評価	5	4	3	2
(2)-①	「建学の精神と理念」、「東京音楽大学ビジョン」及び「教育目的」について、本学ホームページに掲載し、周知に努めている。				
	自己評価	5	4	3	2
(3)-①	「教育目的」の見直しが行われた後に、その検証結果を第Ⅱ期中期計画の推進に適宜反映させる。				
	自己評価	5	4	3	2

(4)-①	「教育目的」の見直しが行われた後、新たな「教育目的」を踏まえた三ポリシーの見直し作業に取りかかる。 なお、2024年度からカリキュラムを改編する音楽文化教育専攻と、新設するミュージックビジネス・テクノロジー専攻の三ポリシーについては、現行の教育目的に沿って2023年度に策定した。				
	自己評価	5	4	3	2
(5)-①	必要に応じて、諸規程の改正あるいは新規則等の策定を行った。 教育研究組織においては教学マネジメント会議を新設したほか、内部質保証推進委員会の委員長を学長とし、責任体制を強化した。 事務組織の再編等については、関連法令との整合及び法人の人事政策に基づき、適宜実施している。2022年度には付属高校及び他高校との連携強化を担う「高大連携センター準備室」を設置した。				
	自己評価	5	4	3	2

○自己点検・評価委員会意見

教育目的や三ポリシーは本学教育の根幹に関わる部分であり、その内容や意味については、学外への発信もさることながら、学内における周知をより徹底する必要がある。またこれらの見直しを行う際には、十分な検討をしていただきたい。

## 2. 内部質保証の推進

中期計画	
(1) 「東京音楽大学内部質保証方針」に基づく責任体制等の充実	
① 「東京音楽大学内部質保証方針」を教職員に周知するとともに、学長のリーダーシップの下、内部質保証のための組織体制・責任体制の強化を図る。また、内部質保証システムが形骸化することのないよう、「東京音楽大学内部質保証方針」を定期的に見直す。(教務課)	
(2) 点検・評価等	
① 内部質保証のための自己点検・評価を定期的実施し、評価結果を公表するとともに、結果を検証し、改善事項に反映する。(教務課)	
② 外部評価を活用することとし、その結果を公表するとともに、結果を検証し、改善事項に反映する。(教務課)	
(3) I R (Institutional Research) 機能の充実	
① I R (Institutional Research) 機能の格段の充実を図り、有効活用を推進する。(I R室)	
(4) 機能性の向上	
① 内部質保証の機能の向上を図るため、内部質保証推進委員会を中心として、三ポリシーを起点とした「教育の内部質保証」に関する機能の点検・評価を継続的に行う。(教務課・入試課)	
② 内部質保証の機能の向上を図るための具体的な方策として、自己点検・評価の結果を改善にフィードバックするPDCAサイクルを構築する。(教務課)	

項目	中期計画にかかる取組内容				
(1)-①	「東京音楽大学内部質保証方針」を本学ホームページに掲載し、教務委員会で説明するなど、教職員への周知に努めている。 また2023年4月に「東京音楽大学内部質保証推進規程」を改正し、内部質保証推進委員会委員長を学長とした。このことにより、本学における内部質保証のための責任体制を強化した。				
	自己評価	5	4	3	2
(2)-①	2022年度は認証評価受審のため、日本高等教育評価機構の評価基準に従った自己点検・評価を実施した。 また以降の自己点検・評価の実施方針及びスケジュールについて、内部質保証推進委員会にて決定したが、2023年度は実施できなかった。2022年度及び2023年度の自己点検・評価については、2024年度にまとめて実施することとした。				
	自己評価	5	4	3	2

(2)-②	2022 年度に日本高等教育評価機構による認証評価を受審した。今後の自己点検・評価における外部評価の導入については、引き続き検討する。				
	自己評価	5	4	3	2
(3)-①	<p>教学 IR 活動として、以下を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業アンケート、学修行動調査等、学生対象調査データの収集、集計</li> <li>・ 広く本学の教育・研究・運営の現況について紹介する『FACTBOOK2021』及び『FACTBOOK2022』を作成し、本学ホームページにて公開した。</li> </ul>				
	自己評価	5	4	3	2
(4)-①	<p>2022 年度は日本高等教育評価機構による認証評価を受審し、2015～2021 年度の自己点検・評価を実施した。</p> <p>2023 年度は自己点検・評価を実施できなかったが、自己点検・評価委員会及び内部質保証推進委員会において 2024 年度以降の継続的な自己点検・評価の実施方針及びスケジュールについて決定した。</p>				
	自己評価	5	4	3	2
(4)-②	自己点検・評価の結果を改善にフィードバックする PDCA サイクルは構築されており、2024 年度以降、自己点検・評価活動を着実に実施する。				
	自己評価	5	4	3	2

○自己点検・評価委員会意見

方針や規程に基づく組織体制の整備、また教学 IR 活動としての FACTBOOK の作成など、内部質保証の機能的枠組みは十分に整備されている。今後は、内部質保証機能のより効果的な運用を通じて、具体的な改善に導くためにも、各教員が意見交換を行える場の設置について検討いただきたい。

### 3. 教育の内部質保証

中期計画
<p>(1) 教育の内部質保証</p> <p>①「東京音楽大学内部質保証方針」に基づき、教育の内部質保証を推進する。(教務課)</p> <p>②「アセスメント・プラン」(学生の学習成果の評価の質的水準や手法)を策定し、学修成果の測定方法について明確にする。また、学修成果の点検・評価結果を教育プログラムや学習指導の改善に活用する。(教務課)</p> <p>(2) 教育目的に基づくディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)</p> <p>①教育目的に基づいたディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)構築に向け、継続的に検討・改善・周知を図る。(教務課)</p> <p>②学生の学修成果の水準を把握し、向上を確実なものとする取組みを推進する。(教務課)</p> <p>③ディプロマ・ポリシーを踏まえた、単位認定基準、卒業認定基準、修了認定基準等の厳正な運用を行う。(教務課)</p> <p>(3) ディプロマ・ポリシーを踏まえたカリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)</p> <p>①学生本位の視点に立った教育を提供し、教育の質の保証を確実なものとする観点から、教育目的を達成するためのカリキュラム・ポリシーの継続的な検討・改善を行う。(教務課)</p> <p>②カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の検証を継続し、体系的な改編を行う。(教務課)</p> <p>(4) 共通教育改革の推進</p> <p>①学生の専門的学修の向上、社会的・職業的自立及び自己確立の基盤となる能力を養成するため、必要な共通教育の質保証への取組みを推進するとともに、東京音楽大学における独自の共通教育の在り方について検討を進め、見直しを行う。(教務課)</p> <p>②国際的互換性のある教育を実施するとともに、グローバルな人材育成に向けた取組みを推進する。(教務課・国際交流センター)</p> <p>③外国語の活用能力をさらに向上させるため、英語を中心とする外国語科目の教育内容を格段に充実させるとともに、教育体制の充実を図る。(教務課)</p> <p>(5) 専門教育の質的向上</p> <p>①学士課程、大学院課程</p> <p>学生の理解力、表現力、創造性を引き出す環境を整備し、専門教育の充実を図る(学士課程、大学院課程共通)とともに、学士課程で身につけた高い専門性を発展させ、各自の個性や独創性を向上させるため、教育研究指導及び体制の整備を行う(大学院修士課程)。また、広い視野に立って、音楽に関する高度な創造、表現並びに博士後期課程の技術と理論を総合的に身につけ、自立して創作・研究活動を行うことのできる能力を向上させる研究指導を行う(大学院博士後期課程)。(教務課)</p>

<p>②演奏能力の向上</p> <p>演奏能力の向上に欠くことのできない質の高い個人指導等を確実に実施するとともに、演奏表現の基盤となる教養教育、感性教育の充実を図る。また、学生に多くの演奏の機会を与え、演奏活動を通して演奏能力の向上を図る。(教務課・演奏課)</p> <p>(6)国際化の格段の推進</p> <p>①法人全体の国際化を具体化していくための国際化推進方針を定めるとともに、国際交流推進体制の整備・充実を図る。(国際交流センター)</p> <p>②国際交流協定締結校を計画的に拡大し、海外から優れた教員等を招聘した演奏指導・講演会、学生、教員の演奏・教育研究交流等を実施するなど海外との学術相互交流を飛躍的に推進する。(国際交流センター)</p> <p>③建学の精神に掲げる国際的視野を持った音楽人・社会人育成のため、本学学生の海外コンテスト参加の奨励、海外留学の拡大、助成を強化する。(教務課・国際交流センター)</p> <p>④留学生受入を拡大するとともに、受入れ体制の整備・強化を図る。(教務課・国際交流センター・学生支援課)</p> <p>(7)その他</p> <p>①教育・授業ツールのデジタル化とオンライン活用及び教員の ICT スキルの向上に関する実施計画を策定するとともに、効果の継続的な点検を行う。(教務課)</p> <p>②教職課程における教員免許の取得に対する支援の充実を図る。(教務課)</p> <p>③実践的なキャリア教育に関する授業を展開し、課題解決力・行動力等の育成を図る。(教務課・キャリア支援センター)</p> <p>④国内外の大学間協定等による単位互換制度の活用を拡大する。(教務課・国際交流センター)</p> <p>⑤大学と付属高等学校の教員が連携協力し、教育内容の連続性や接続性を意識しながら、生徒・学生の育成に携わる。(教務課・付属高校・高大連携センター準備室)</p> <p>⑥他の高等学校からの要請に応え、高大連携授業を実施する。(教務課・高大連携センター準備室)</p>
--

項目	中期計画にかかる取組内容					
(1)-①	「東京音楽大学内部質保証方針」に基づき設置された内部質保証推進委員会において、第4期認証評価受審に至る自己点検・評価の実施方針及びスケジュールを定めた。2023年度は自己点検・評価を実施できなかったが、2024年度以降「東京音楽大学内部質保証方針」に従って、自己点検・評価に基づく教育の内部質保証を着実に推進する。					
	自己評価	5	4	3	2	1



(1)-②	教育目的及び三ポリシーの再検討後に、アセスメント・プランの策定に向けた準備を開始する。					
	自己評価	5	4	3	2	1
(2)-①	教育目的の再検討後に、それに基づいたディプロマ・ポリシーを策定する。					
	自己評価	5	4	3	2	1
(2)-②	教学マネジメント会議において、現状のディプロマ・ポリシーに基づく学修成果の把握・可視化について検討し、取組の一環として、個人実技レッスン科目について、教員が担当学生の成績評価（点数）を把握出来ることとした。また教育目的及び三ポリシーの再検討後に、新たなディプロマ・ポリシーに基づく学修成果の把握・可視化について検討する方針である。					
	自己評価	5	4	3	2	1
(2)-③	ディプロマ・ポリシーを踏まえた、単位認定基準、卒業認定基準、修了認定基準等について、厳格かつ適正な管理を実施している。					
	自己評価	5	4	3	2	1
(3)-①	教育目的の再検討後に、それに基づいたディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを策定する。					
	自己評価	5	4	3	2	1
(3)-②	共通教育及び音楽文化教育専攻の改編、ミュージックビジネス・テクノロジー専攻の新設において、カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程を編成した。					
	自己評価	5	4	3	2	1
(4)-①	2021 年度以降共通教育推進センター運営会議において、本学独自の共通教育の在り方について議論を進め、教養科目及び外国語科目の全面的な見直し（科目構成、卒業要件単位数等）について検討を重ねた。その結果、教養科目では1年次必修科目として、アカデミックスキルの基礎を身に付けるための「教養演習」を2023 年度から開始した。また外国語科目については科目構成の再編や卒業要件単位数の変更などを決定し、2024 年度から実施することとなった。					
	自己評価	5	4	3	2	1
(4)-②	2023 年度より修士課程器楽専攻において、英語のみで実施する授業クラスを必修科目の一部で開設した。正科外の語学教育として、ネイティブスピーカーのチューターによる英会話レッスンを実施している。対象は受講を希望する全学生だが、特に短期留学等に参加する学生には受講を奨励している。					
	自己評価	5	4	3	2	1

(4)-③	<p>共通教育推進センター運営会議において、英語を中心とする外国語科目の教育内容の充実について検討した。</p> <p>2022年度には全学必修の「英語コミュニケーション」について、音楽大学の学生に適した教科書を採用するとともに、専任教員を中心に担当教員の連絡・協力体制を構築し、成績評価方法を一新するなどの改善を行った。</p> <p>2023年度は外国語科目の全面的な見直し（科目構成、卒業要件単位数等）について検討を重ね、2024年度から実施することとなった。</p>					
	<table border="1"> <tr> <td>自己評価</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> </table>	自己評価	5	4	3	2
自己評価	5	4	3	2	1	
(5)-①	<p>各課程における専門教育については、それぞれの担当委員会（教務委員会、修士課程委員会、博士課程委員会）において常に検討し、改善を図っている。</p> <p>また助手を増員するなどのサポート体制を強化した。</p>					
	<table border="1"> <tr> <td>自己評価</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> </table>	自己評価	5	4	3	2
自己評価	5	4	3	2	1	
(5)-②	<p>個人指導による個人実技レッスンを確実に実施した。学生からの相談等により問題が発生した場合には、丁寧に対応し、改善した。</p> <p>年間を通じて多くの大学主催演奏会等を開催したほか、外部団体からの依頼演奏会への出演を斡旋するなど、学生に多くの演奏の機会を提供した。特に2022年10月13日・14日にはサントリーホールにて本学創立115周年特別演奏会を実施し、できるだけ多くの学生が参加できることを目的に、オーケストラ、吹奏楽、合唱、室内楽等、バラエティに富んだ9公演を開催した。</p>					
	<table border="1"> <tr> <td>自己評価</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> </table>	自己評価	5	4	3	2
自己評価	5	4	3	2	1	
(6)-①	<p>2023年2月9日の国際交流委員会において「東京音楽大学の国際化推進方針」を決定するとともに、国際交流推進体制の整備・充実を図るべく、英語版ホームページのリニューアル、英語併記の「大学案内」パンフレット作成などを行った。</p> <p>その他、海外大学の学長や教員のほか、政府関係者や要人等、様々な訪問者を受け入れ、対応した。</p>					
	<table border="1"> <tr> <td>自己評価</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> </table>	自己評価	5	4	3	2
自己評価	5	4	3	2	1	
(6)-②	<p>国際交流協定締結校の新規開拓の他、従前から締結していた協定書の内容を見直し、必要に応じて更新するなど、整備を進めた。</p> <p>2022年度新規締結校として、サセックス大学（イギリス）と留学協定、ハダースフィールド大学（イギリス）と学術協定を結び、シベリウス・アカデミー（フィンランド）、インドネシア国立芸術大学スラカルタ校とは協定を更新した。</p> <p>2023年度新規締結校として、チューリッヒ芸術大学（スイス）と交換留学協定を、インドネシア芸術大学ジョグジャカルタ校とは学術交流協定を、それぞれ結んだ。</p> <p>海外から優れた教員等を招聘して実施するマスタークラスレッスンについて</p>					

	<p>は、2022 年度 12 回、2023 年度 16 回を開催したほか、3 名の長期招聘教授によるレッスンを開催した。</p> <p>王立ブータン大学パロ教育カレッジから研究者の訪問を受けて、両国の伝統音楽の研究交流とレクチャーコンサートを実施するなど、海外の研究者との教育研究交流等を進めている。</p> <p>また協定校から受け入れた留学生と本学学生による交流演奏会の開催、ウェストモント大学（アメリカ）の合唱交流演奏会の実施、バイエルン青少年オーケストラ及びワールドユースオーケストラへの学生派遣など、学生の演奏交流を推進している。</p>
自己評価	5      4      3      2      1
(6)-③	<p>海外留学の促進を目的に、海外の大学等における修得単位を本学における修得単位に認定することを学則において規定した。</p> <p>海外コンクール等に参加する学生については、個別に履修相談に応じたほか、推薦状の翻訳や外部奨学金申請などの支援を行っている。</p> <p>短期留学奨学金制度に基づき、2022 年度 10 名、2023 年度 12 名の学生の短期留学に際し、参加費、宿泊費、航空運賃の一部を補助した。</p>
自己評価	5      4      3      2      1
(6)-④	<p>留学生誘致のため、英語版ホームページのリニューアル、英語併記の「大学案内」作成及び中国語版ホームページの開設を行った。</p> <p>本学オープンキャンパスに参加する留学希望者（特に中国人）が増えており、中国語による対応が可能な職員を配置した。また、日本国内の音楽大学進学を支援する中国人対象進学塾の依頼により、説明会を行った。</p> <p>東南アジア諸国からの留学生誘致のため、インドネシアで音楽教室を展開している日本企業と共同でオンラインレッスンの実施に向けて準備を進めた。</p> <p>急増している中国人留学生について、個人面談等を通じて学修支援、生活支援を行っているほか、日本語教育担当の専任教員を招聘し、2024 年度から留学生向け日本語科目を設置することとした。</p>
自己評価	5      4      3      2      1
(7)-①	<p>学内者向け情報提供サイト「VIVO」及び学内ポータルサイト「UNIVERSAL PASSPORT」を活用している。後者については、掲示の他、授業資料の配付、質疑応答、試験の実施などを行うことが可能で、そのための教員向けマニュアルの作成、配布を行っている。</p>
自己評価	5      4      3      2      1
(7)-②	<p>教育実習事前指導において、担当教員を増やして履修者をクラス分けし、教育実習に関わる書類作成の指導と確認などを徹底した。</p> <p>また 2022 年度教職課程の自己点検・評価を実施した。</p>

	自己評価	5	4	3	2	1
(7)-③	2022年度に教養科目として、学生が社会において自ら考え、判断し、行動ができるようになることを目指す「キャリアデザイン論」を新設した。担当教員はキャリア支援センターにてキャリア支援業務を担当しており、授業内で実施した職業適性検査結果を踏まえたカウンセリング指導をキャリア支援センターで行うなど、授業とキャリア支援とが連動して機能している。この他、キャリア支援センターでは、教職課程と連携した教員養成講座を実施している。また、教学マネジメント会議において、従来からのキャリア教育科目を含めた全学的なキャリア支援科目の再編成について検討を開始した。					
	自己評価	5	4	3	2	1
(7)-④	上智大学、聖心女子大学、放送大学との単位互換制度に加え、2023年度から東京電機大学理工学部との単位互換制度を開始した。 2023年度本学から派遣したりセウ高等音楽院（スペイン）、王立バーミンガム音楽院（イギリス）への留学生について、それぞれの留学先で修得した単位を、帰国後に本学で修得した単位として認定する手順等について検討した。					
	自己評価	5	4	3	2	1
(7)-⑤	教務課及び高大連携センターと付属高校との間で、付属高校生徒による大学の授業履修及び入学後の単位認定について、制度化の検討を行った。					
	自己評価	5	4	3	2	1
(7)-⑥	クラーク記念国際高等学校東京校との協定に基づき、高大連携授業「ヴォイス・トレーニング」を実施した。 授業以外の取組として、学校訪問や大学見学、講師派遣で各高校からの要請に応え、教員や学生の演奏、公開レッスン等を数多く実施した。特に2023年度は京都市立京都堀川高等学校の研修旅行を受け入れ、個人レッスンの実施や本学付属高等学校との合同演奏会の開催を支援した。					
	自己評価	5	4	3	2	1

○自己点検・評価委員会意見

今後着実に自己点検・評価を実施することとする。  
共通教育、専門教育、国際協力など、各部署での取り組みは活発ではあるものの、それらの相互理解・相互協力には至っていない部分が見受けられる。部署間で現状報告や意見交換をする場を設けるなど、より連携を促進する体制づくりについて検討いただきたい。

#### 4. 学生募集

中期計画	
<p>(1) 学生の確保</p> <p>①「教育の質の保証」の状況をはじめとする大学の諸活動を、ホームページやSNSによる多様な発信手法を活用するなど、戦略的な広報計画のもとに情報発信を推進する。(広報課)</p> <p>②きめ細かな入試動向の分析、参加体験型の入試説明会の実施、戦略的な入試広報活動を通じて入学志願者数増加を図る。(広報課)</p> <p>③アドミッション・ポリシー(入学者の受入れ方針)に則し、適正数の入学者を選抜する。(入試課)</p> <p>④本学付属高等学校とのカリキュラム連携、一貫教育強化の取り組みを推進する。(教務課・付属高校・高大連携センター準備室)</p> <p>⑤一般高等学校から本学への進学拡大のため、入学後の指導、支援体制を整備する。(広報課・高大連携センター準備室・入試課・教務課・学生支援課)</p> <p>⑥本学を志願する留学生受入れの支援体制、教育環境整備を推進するとともに、海外への広報活動を計画的に実施する。(広報課・入試課・教務課・学生支援課)</p> <p>(2) 入試改革</p> <p>①多岐にわたる入学者選抜試験で安定的に学生を確保するため、継続的な入試改革の評価・検討システムを構築する。(入試課)</p> <p>②多様な選考に対応する入学者選抜方法を検証し、学生の意欲・適正を的確に判断する入試の在り方について対策を講じる。(入試課)</p> <p>③受験生の能力を多面的に判断する学校推薦型選抜や総合型選抜を着実に実施する。また、入学後の学生の学修や活動の状況の把握に努め、次期入学者選抜の在り方を検討する。(入試課・高大連携センター準備室)</p> <p>④大学院入試については、分野の特性に応じた適切な入学者選抜を実施するとともに、社会人のリカレント教育の推進等を検討しつつ、入学者数及び質の確保を図る。(入試課・教務課)</p> <p>⑤入学者選抜方法ごとの募集定員、合格者数及び入学者数について分析、整理を行い、入学定員管理を計画的に実施する。(入試課・広報課・高大連携センター準備室)</p>	

項目	中期計画にかかる取組内容
(1)-①	「東京音楽大学内部質保証方針」及び「東京音楽大学内部質保証推進規程」を本学ホームページにて公表しているほか、大学行事、講座、演奏会、コンクール受賞実績等、本学の教育研究活動について本学ホームページおよび SNS にて頻繁に発信した。各種 SNS では年間 1000 フォロワー以上の増加を維持して

	<p>いる。テレビや雑誌の取材の積極的な受け入れ、プレスリリース配信等、多様な発信手法を活用している。</p> <p>新専攻の開設、既専攻の改編についても各種広報媒体の活用により積極的に情報発信したほか、全専攻の紹介ページの全面改善に向けて準備を進めている。</p>
自己評価	5      4      3      2      1
(1)-②	<p>2022 年度からオープンキャンパスの開催を年 4 回に増やした結果、来校者数は大幅な増大となった。本学ホームページや SNS での事前告知、新規イベントの実施、参加者アンケートの結果分析から、内容の改善を図った。2023 年度も引き続き改善を図り、年間参加者数が前年度比 1.46 倍となるなど、本学と受験生が接する大事な場として定着してきた。</p> <p>受験講習会では 2022 年度から認定試験を導入し、受講者数の増大に繋げた。2023 年度からは実技レッスンのみの受講者も認定試験受験を可能とするなど、改善を継続している。</p> <p>これらの他、職員による学校個別見学（個別相談）、個別相談フォームの運営も年間を通して実施した。さらに、学外の音大フェアや、全国音楽高校協議会にも参加し、本学の広報活動を推進した。</p>
自己評価	5      4      3      2      1
(1)-③	<p>総合型、学校推薦型、一般の各選抜試験において、アドミッション・ポリシーに則り、専攻、コース並びに専門分野の特色に応じた選抜方法による適切な選考を公平な体制のもとで実施し、適正に入学者を選抜した。</p>
自己評価	5      4      3      2      1
(1)-④	<p>付属高校における管打楽器のアンサンブル授業は、大学教員による指導の下、大学生とのアンサンブルを継続的に行っており、こうした取組の拡大を検討している。</p>
自己評価	5      4      3      2      1
(1)-⑤	<p>ソルフェージュを苦手とする学生を支援するため、「ソルフェージュ基礎 1・2」を、2024 年度から開設することとした。従来の「ソルフェージュ I・II」同様、卒業必修単位として算入可能な授業科目である。</p>
自己評価	5      4      3      2      1
(1)-⑥	<p>2023 年度より修士課程器楽専攻において、必修科目の一部に英語のみで授業を行うクラスを開設した。また日本語担当の専任教員を招聘、2024 年度から日本語科目を開設することとした。</p> <p>海外に向けた広報活動として、留学生向け情報サイトや情報誌に入試情報を掲載した他、英語版問合せフォーム、メールや電話等による留学希望者からの問合せに対して個別に対応した。</p>
自己評価	5      4      3      2      1

(2)-①	入学者選抜試験の検討は入学試験運営委員会において継続的に実施している。総合型選抜において器楽専攻で一般課題による募集を新たに実施した。このほか、新専攻入試の実施、入試課題等の変更、受験講習会における認定試験の実施方針等、個別の課題について検討、改善を図っている。				
	自己評価	5	4	3	2
(2)-②	優秀者選抜、飛び入学選抜等、専門領域における卓越した技能を有する受験生確保を目的とした入試について、その趣旨を要項などに明確に記載するとともに、奨学金との関係についても担当部署と相談し、整理した。				
	自己評価	5	4	3	2
(2)-③	学校推薦型選抜及び総合型選抜におけるそれぞれの趣旨等を明確にし、入学試験運営委員会で定めた要項に従って着実に実施した。 各選抜方法入学者ごとに成績追跡調査等を実施し、今後の入学者選抜の在り方について検討する準備を行っている。				
	自己評価	5	4	3	2
(2)-④	修士課程委員会及び博士課程委員会において定めた要項に従い、それぞれの入学者選抜を実施した。特に修士課程においては一般入試の他、留学生及び社会人を対象として特別入試を実施し、入学定員を上回る入学者を得た。 修士課程入試説明会では、音楽史の試験対策講座を実施し、志願者が実技だけでなく、研究に必要な知識の習熟度を測る学科試験にも意識を向けるための工夫を行った。				
	自己評価	5	4	3	2
(2)-⑤	受験講習会における受講者数と、入学者選抜種別ごとの受験者数の動向を確認、分析し、事務局内で共有している。 また、近年の出願状況の変化と入学志願者の利便性を考慮し、入試種別ごとの募集定員を要項に明記した。				
	自己評価	5	4	3	2

○自己点検・評価委員会意見

入試に関して、どうしても従来の手法や内容に固執する傾向が見受けられる。基本的に「来た者を受け入れる」体質で、こちらから「迎えに行く」姿勢が薄い。高校に出向く、地方で講習会を行う、といったことを教員が参加する形で実施し、現状に即した新しい入試の在り方を検討していただきたい。

## 5. 学生支援

中期計画
<p>(1) 学修支援体制の強化</p> <p>① 多様な学修履歴や個々の事情を踏まえ、教育上のきめ細かな指導・助言を行うため、学修支援体制、システムを強化し、組織的に学生の主体的な学修を支援する。(教務課・学生支援課)</p> <p>(2) 多様な学修支援・学修環境整備</p> <p>① T A (Teaching Assistant) 、メンター制度等の活用による学修支援を推進する。(教務課・学生支援課)</p> <p>② 障がいのある学生に対しての学修支援・生活支援を教員・職員・学生の協働により全学体制で実施する。(学生支援課)</p> <p>③ 教学システムの授業 Q&amp;A を活用することで、時間や場所に捉われない質疑応答に対応できるよう、オンラインでのオフィスアワー制度を全学的に展開し、学生の主体的な学びに繋がる支援強化を行い、学修の充実を図る。(教務課)</p> <p>④ 中途退学、休学及び留年への対応について、その実態や原因を分析するとともに、改善方策について教職協働により検討・実施する。(教務課・学生支援課)</p> <p>⑤ 学生の実技練習室を確保・調整し、学生の主体的な学修に対する支援機能を充実する。(学生支援課)</p> <p>⑥ 学修支援及び学修環境に関する学生からの意見・要望を把握・分析し、改善を図る。(学生支援課)</p> <p>(3) 学生生活充実のための支援</p> <p>① 経済的支援をはじめとする学生生活の安定のための支援方策について、学生の生活状況等を踏まえた上で実施する。(学生支援課・財務課)</p> <p>② 傑出した才能を有する成績優秀者に対する支援を実施する。(教務課・学生支援課)</p> <p>(4) 学生生活環境に関する支援</p> <p>① 学生の健康相談(メンタルケア)に関する専門的な助言や援助をうけることができる支援体制を充実する。(学生支援課)</p> <p>② 学生の課外活動に関する支援を適切に実施する。(学生支援課)</p> <p>(5) キャリア支援・就職支援</p> <p>① すべての学生の多様な進路希望及び社会活動等に応えるべく、教育課程内外を通じて社会的・職業的自立を確立するキャリア形成を全学的に支援する。(キャリア支援センター)</p> <p>② キャリア支援センターにおける就職支援方策の充実を図り、音楽家、音楽教育者等を育成するのみならず、一般企業を含む幅広い分野への就職・進路を支援する。(キャリア支援センター)</p>



(6) 付属図書館による学修支援
① 本学の現況に則した資料や学術情報の収集、提供、利用の促進を図る。(付属図書館)
② 図書館及び情報リテラシーを中心に据えた学修支援を充実する。(付属図書館)
③ 大学史関係資料を含む学術資産の収集とアーカイブ機能の充実を図る。(付属図書館)
④ 音楽研究及び実践に寄与する特殊コレクションを収集するとともに書誌情報等を公開する。(付属図書館)
⑤2 キャンパスの展開に伴う付属図書館機能の充実、サービス体制の強化を図る。(付属図書館)

項目	中期計画にかかる取組内容				
(1)-①	障がい学生からの修学支援については、障がい学生支援委員会にて支援内容を確認し、あるいは様々な事情を有する学生についても、学生支援課を中心に事務局で連携しながら、個々に対応した。在学中の支援対象者には学期末に、新生には入学前に、それぞれ面談を実施し、支援の調整を行った。				
自己評価	5	4	3	2	1
(2)-①	改正大学設置基準・大学院設置基準の趣旨を踏まえ、「東京音楽大学ティーチング・アシスタント規程」及び募集要項を改正した。 また、従来博士後期課程学生の研究支援のみを行っていた研究支援職員の業務内容を変更し、2024年度からは学部、修士課程及び博士後期課程学生の学修研究支援を行うこととし、その準備を進めた。				
自己評価	5	4	3	2	1
(2)-②	学生委員会において、障がい学生委員会に提出された障がい学生申請および対応状況について、教職員間で情報共有を行い、対応等について検討した。				
自己評価	5	4	3	2	1
(2)-③	授業時間外の質疑応答にも対応するため、学内ポータルサイト「UNIVERSAL PASSPORT」における授業 Q&A 機能をオフィスアワーと定義し、学生及び教職員に周知の上、利用マニュアルを作成し、配布している。				
自己評価	5	4	3	2	1
(2)-④	学生からの休退学に関する相談は、職員が個別に面談をし、必要に応じて医務室や学生相談室、教員と連携して対応している。休退学を希望する学生には、学費や成績の取り扱い、関連する手続きを学生に具体的に文書で明示して説明している。休退学は教授会にて意見を聴いた上で、学長が決定しており、教職員間で情報共有がなされている。 休退学の原因が経済的理由の場合に奨学金の紹介などで対応しているが、精神的な理由は対応が困難な場合があり、引き続き工夫が必要である。				
自己評価	5	4	3	2	1

(2)-⑤	<p>新入生ガイダンスで練習室および教室の利用ルール、マナーの説明を実施したほか、「VIVO」にも利用ルール等に関する説明書を掲示している。また、平日同様、日曜・祝日についてもオンライン予約を可能とし、利便性を高めた。利用度が高まったことに伴い、改めて利用マナーの徹底について指導を強化した。問題が発生した場合は、その都度「UNIVERSAL PASSPORT」において全学的な注意喚起を行った。</p>
	<p>自己評価</p> <p style="text-align: center;">5                  4                  3                  2                  1</p>
(2)-⑥	<p>WEB アンケート形式による「学生生活実態調査」を実施し、学生に対しフィードバックをおこなった。調査で寄せられた施設等に対する意見については、今後の改善の参考とした。</p>
	<p>自己評価</p> <p style="text-align: center;">5                  4                  3                  2                  1</p>
(3)-①	<p>各奨学金規程に基づき、入学奨学金、家計急変者奨学金、複数就学者授業料減免を実施した。また、「新型コロナウイルス感染拡大に伴う家計急変者への授業料減免規程」について見直し、収入証明を公的資料に一本化し、より公正に対応できるよう工夫した。</p> <p>2022 年度開寮の「TCM 女子寮」については、ルールを整備し、寮生会の協力のもと、寮生が安心して生活を送れるよう運営した。</p>
	<p>自己評価</p> <p style="text-align: center;">5                  4                  3                  2                  1</p>
(3)-②	<p>毎年度、特別特待奨学生及び給費奨学生を選考し、傑出した才能を有する成績優秀者に対する支援を実施した。</p> <p>2022 年度：特別特待奨学生 17 名、給費奨学生 49 名 2023 年度：特別特待奨学生 10 名、給費奨学生 62 名</p>
	<p>自己評価</p> <p style="text-align: center;">5                  4                  3                  2                  1</p>
(4)-①	<p>学生相談室において、対面およびオンラインでのカウンセリングを引き続き実施した。カウンセリング対応件数について、学生支援課に対する報告を義務づけ、学生相談室と事務局の連携を促進した。</p> <p>学生委員会では学生間ハラスメント等の情報を共有し、対応を協議した。</p>
	<p>自己評価</p> <p style="text-align: center;">5                  4                  3                  2                  1</p>
(4)-②	<p>学生自治会が中心となって運営する芸術祭、謝恩会等の企画運営について、学生支援課による支援と指導を実施した。</p> <p>芸術祭について、2022 年度はコロナの影響により様々な制約があったが、2023 年度は従来通りの開催となった。数年ぶりの開催となったため、設備の劣化や学生同士の連携不足があり、学生支援課が中心となって支援を行った。</p> <p>卒業アルバム作成や謝恩会の実施についても、コロナ禍により先輩からの引き継ぎが途絶えたため多くの困難が生じ、実施に向けて学生支援課が支援した。</p>
	<p>自己評価</p> <p style="text-align: center;">5                  4                  3                  2                  1</p>

(5)-①	2022 年度に新設した教養科目「キャリアデザイン論」において職業適性検査を実施、検査結果を踏まえたキャリア支援センターでのカウンセリング指導や各自の進路決定に繋げた。 その他、個人事業希望者対象のインボイス講座、民間企業就職希望者対象の企業説明会やグループ指導での就職支援講座、教員希望者対象の教員養成講座をそれぞれ開講し、多様な進路希望に対応した。				
	自己評価	5	4	3	2
(5)-②	キャリア支援センターにおいて、学部2年次の1月、3年次の4月、5月（進路ガイダンス兼ねる）、9月にインターンシップガイダンスを実施し、どの時期にあっても就職希望者がインターンシップに取り組めるように指導した。また、対面ガイダンスを両キャンパスで開催するなど、学生が就職支援講座に参加しやすいように工夫した。				
	自己評価	5	4	3	2
(6)-①	音楽大学として必要な研究・学修に資する各種媒体資料の収集・整理を継続的に行っている。 クセナキス、シュッツ、スクリヤービン、伊福部昭をテーマとした館内展示のほか、急逝された野島稔学長及び西村朗教授の追悼展示を行った。 『東京音楽大学研究紀要』第46号及び47号を刊行した。 また、ホームページやSNS等を活用して、情報発信、利用の促進を図った。				
	自己評価	5	4	3	2
(6)-②	学部生に対しては、必修授業科目と連携し、図書館ガイダンス動画を配信したほか、希望者には書庫内見学を実施した。また高大連携の一つとして、図書館ガイダンスを高校生にも実施した。 その他、図書館カウンターに学修サポーターを配し、連携して学修支援を行った。				
	自己評価	5	4	3	2
(6)-③	これまでに開催してきた本学主催演奏会のプログラムの整理、公開を継続している。過去の公演録音・映像資料群の内容確認に着手したほか、大学主催の定期演奏会等LPレコードの目録を作成した。 また、本学主催演奏会アーカイブ、伊福部昭コレクションの目録、デジタルアーカイブの更新、公開のほか、紀要論文、学位論文等のリポジトリ公開を行った。				
	自己評価	5	4	3	2
(6)-④	2022 年度は「伊福部昭コレクション デジタル化およびデータベース公開事業」について、公益財団法人図書館振興財団の助成を受け、伊福部昭コレクションの整理を集中的に行った。2023 年度には伊福部昭コレクション新規寄贈				

	資料のほか、今井重幸氏寄贈資料、福島雄次郎手稿譜、野島稔旧蔵資料等の整理、目録整備を行った。					
	自己評価	5	4	3	2	1
(6)-⑤	感染症対策のため利用を制限していたクリエイティブラボのグループ学習室の環境を整備し、利用提供を再開した。各キャンパス、各エリアの目的に合わせた選書、専用コーナー展開を行った。 2022 年度末からの池袋キャンパス改修工事期間中も、A館サテライト、クリエイティブラボ、仮設図書館（書庫）の3 地点を結んでサービスを提供した。2024 年 9 月のリニューアルオープンに向け、新たな利用者サービスの検討、準備を進めた。					
	自己評価	5	4	3	2	1

○自己点検・評価委員会意見

<p>学修支援、学生生活支援、キャリア支援など、個々の事項については各部署とも試行錯誤しながら、一定の成果をあげている。しかし、それらの仕組みや内容について知らない教職員や学生が多いと思われる。興味関心がない者にも情報が届く仕組みの構築について検討いただきたい。</p> <p>また、個々の学生がどのような学修状況・活動状況なのかを、個人情報保護上で問題がない範囲で把握できるような仕組み（例えば学修ポートフォリオ）の導入を検討していただきたい。</p>
---

## 6. 研究及び研究支援

中期計画
(1) 研究の推進
①「東京音楽大学ビジョン」に掲げる「音楽文化の多角的な研究」を推進し、広く成果を発信する。(研究支援室)
②科学研究費補助金等の競争的研究費の獲得を進める。(研究支援室)
(2) 国内外の研究交流
①国内外の研究機関・研究者等との共同研究・研究交流を積極的に展開する。また、キャンパス内での研究会等の開催を積極的に実施する。(研究支援室)
(3) 附属民族音楽研究所
①「東京音楽大学ビジョン」に掲げる「アジア音楽の研究拠点として創造的な研究」を推進する。(附属民族音楽研究所)
②多様な音楽的価値の尊重につながる研究ブランディング事業を展開する。(附属民族音楽研究所)
③アジア音楽に係る研究成果の公表活動を推進するとともに、研究紀要「伝統と創造」を定期的に発刊する。(附属民族音楽研究所)
④アジア音楽の研究拠点として、内外研究機関との連携を推進する。(附属民族音楽研究所)
⑤研究所の特色を活かした社会人講座の開催を推進する。(附属民族音楽研究所)
(4) 研究支援の推進
①競争的研究費を獲得するための支援を推進する。(研究支援室)
(5) 研究支援体制の充実・強化
①研究支援室の体制強化を推進する。(研究支援室)
(6) 研究費の管理及び研究活動の適正化
①公的研究費の適正な使用・管理のための取組みを推進する。(研究支援室)
②研究活動における不正行為防止の取組みを推進する。(研究支援室)
③産学連携等における利益相反を防止するため、適正な管理を行う。(研究支援室)
(7) 研究倫理教育
①適切な研究費の管理及び研究活動の適正化に向け、教員、学生及び事務職員のコンプライアンス教育を強化する。(研究支援室)
(8) 研究活動への資源配分等
①研究活動に関する評価に基づいた資源配分を行うなど支援の充実を図る。(研究支援室)
②研究活動に対して、RA(Research Assistant)を活用した人的支援を推進する。(研究支援室)

項目	中期計画にかかる取組内容				
(1)-①	<p>従来方針を継続し、多様な研究員を受け入れることにより、本学の研究実施体制を強化し、研究活動の活性化を図った。2022年度は共同研究員2名を、2023年度は外国人研究員1名を、それぞれ受入れた。</p> <p>本学における文化芸術推進事業の研究成果や科学研究費助成事業は、附属図書館リポジトリ登録を促し、事業の成果を広く社会に発信した。</p> <p>また附属民族音楽研究所編による職務著作『ガムラン入門 ～インドネシアのジャワガムランと舞踊』（東京音楽大学附属民族音楽研究所（編）、木村佳代／樋口文子／針生すぐり、2023年）を刊行し、同研究所の成果を広く社会に発信した。</p>				
	自己評価	5	4	3	2 1
(1)-②	<p>競争的資金獲得実績は下記のとおりである。</p> <p>2022年度</p> <p>科学研究費助成事業：新規1件</p> <p>大学における文化芸術推進事業（文化庁）：新規1件</p> <p>2023年度</p> <p>科学研究費助成事業：新規2件</p> <p>大学における文化芸術推進事業（文化庁）：継続1件</p> <p>また各種競争的資金応募申請を支援している。</p>				
	自己評価	5	4	3	2 1
(2)-①	<p>千葉大学大学院医学研究院と共同研究契約を締結し、2022年度より共同研究を開始した。研究テーマは「パフォーミングアーツ医学分野における演奏家の上肢機能および演奏動作に関する研究」であり、研究実施期間は2026年3月31日までとなる。</p>				
	自己評価	5	4	3	2 1
(3)-①	<p>研究所の教員及び特任研究員により、沖縄の組踊、尺八の同族楽器「天吹」、アジアの口琴、ルーマニアにおけるパンフルートの歴史、リュートとビウエラの歌との関わりなど多様な研究を行い、公開講座や研究紀要等で発表した。</p> <p>また『ガムラン入門 ～インドネシアのジャワガムランと舞踊』（東京音楽大学附属民族音楽研究所（編）、木村佳代／樋口文子／針生すぐり、2023年）を刊行し、研究成果を広く社会に発信した。</p>				
	自己評価	5	4	3	2 1
(3)-②	<p>日本を含むアジア音楽に関する創造的な研究を推進し、アジア音楽の研究拠点としてのブランディング化を目指した。</p> <p>その一つとして、「大学における文化芸術推進事業」（文化庁）に採択された「日</p>				

	本とアジアの伝統音楽・芸能のためのアートマネジメント人材育成プラットフォーム」の充実をはかった。					
	自己評価	5	4	3	2	1
(3)-③	附属民族音楽研究所が所蔵する視聴覚資料のアーカイブを公開するための準備を整え、2023年度に公開を開始した。 研究紀要『伝統と創造』vol.12を刊行した。また、『ガムラン入門 ～インドネシアのジャワガムランと舞踊』（東京音楽大学附属民族音楽研究所（編）、木村佳代／樋口文子／針生すぐり、2023年）を刊行し、研究成果を広く社会に発信した。					
	自己評価	5	4	3	2	1
(3)-④	2019～2021年度採択に続き、2022・2023年度「大学における文化芸術推進事業」（文化庁）に採択され、「伝承を担うフィールドからまなび、ともにつくり、地域へつなぐアートマネジメント人材育成ー伝統音楽・芸能の地域レガシーによる新たな価値創出を目指してー」事業を実施している。「伝承を担うフィールドからまなび」をテーマに、各地域の民俗芸能等や住民の音楽活動の状況を踏まえた公演等を企画・運営するためのアートマネジメント人材育成プログラム開発を目的として、附属民族音楽研究所を事業推進母体に、関係機関と連携を図りながら、事業を展開した。 また、国内外の学術研究者または学識経験者との交流を実践的に行うことによって、本学の学術の進展に寄与することを目的として共同研究員を受入れており、2022年度2名の受入れを実施した。					
	自己評価	5	4	3	2	1
(3)-⑤	多様な音楽がテーマの公開講座、ガムランの演奏・舞踊を広く学ぶ社会人対象のガムラン講座、邦楽、古楽及び民族楽器について個人レッスンと講義を通じて学ぶ社会人特別講座等、公開講座（無料）や各種社会人講座を定期的に開催した。					
	自己評価	5	4	3	2	1
(4)-①	競争的資金の獲得促進のため、継続的に外部資金情報の迅速な把握及び学内への提供を行った。また、本学研究者を講師に、本学における研究支援内容や競争的資金獲得のためのセミナー動画を収録し、学内に配信・周知した。					
	自己評価	5	4	3	2	1
(5)-①	「東京音楽大学競争的資金獲得促進に係る支援に関する内規」を2022年に策定し、科研費等の公募に不採択だった場合においても、一定の条件下で研究奨励金を支給した。本制度は本学における競争的資金獲得のモチベーション向上の一助となり、研究支援体制を強化した。					
	自己評価	5	4	3	2	1

(6)-①	「研究不正防止ハンドブック」、「公的研究費等謝金基準単価表」等をもとに、各種ルール、管理体制等の検証と見直しを行い、内容の更新と充実を図った。				
	自己評価	5	4	3	2
(6)-②	文部科学省「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」に基づき、本学における不正防止体制を「研究不正防止ハンドブック」へ収録し、学内周知を徹底した。				
	自己評価	5	4	3	2
(6)-③	本学ホームページにて「学校法人東京音楽大学利益相反ポリシー」及び「学校法人東京音楽大学利益相反マネジメント規程」を掲載し、利益相反防止及び適正な管理を図った。				
	自己評価	5	4	3	2
(7)-①	本学「研究不正防止ハンドブック」を配付するとともに、本学ホームページに掲載し、随時個別相談を受け付け研究倫理教育を実施した。あわせて、その他教材として関係規程や外部 e ラーニングウェブサイト情報をホームページにて掲載しており、教員、学生及び事務職員のコンプライアンス教育に資する取組みを充実・強化した。				
	自己評価	5	4	3	2
(8)-①	研究活動による論文、学会発表、競争的資金獲得等の業績を、専任教員給与規程の評価項目の一部として設けた。				
	自己評価	5	4	3	2
(8)-②	「東京音楽大学リサーチ・アシスタント規程」に基づき、毎年度大学院博士後期課程学生を対象としてリサーチ・アシスタントを選考している。本学が行う研究活動等の研究補助者として優秀な大学院博士後期課程学生を参画させることにより、本学における研究活動の効果的推進、研究体制の充実・強化及び若手研究者としての研究遂行能力の育成を図っている。 2022年度：2人 2023年度：2人				
	自己評価	5	4	3	2

○自己点検・評価委員会意見

本学には専門的な研究室が極めて少なく、ゼミナール形式の授業も非常に少ないため、個人活動による研究（演奏活動等）が中心となり、専攻ごとなど研究室単位での共同研究が実施しにくい。その結果、紀要に発表できるような論文研究が生まれにくい。  
まずは研究ができるような環境作りに向けて検討いただきたい。



## 7. 教員・職員

中期計画	
(1) 教学マネジメントシステムの充実	
① 学長のリーダーシップの下、権限の委任と責任の明確化に基づいた教学マネジメント体制をさらに充実する。(教務課)	
(2) 教員の配置	
① 学長のリーダーシップの下、適切な教員配置を行うガバナンス体制を構築する。(教務課・人事課)	
② 教育の質を保証するため、教員評価制度を見直し、客観的かつ厳正な評価制度を構築する。(教務課・人事課)	
(3) 職員の配置	
① 教学マネジメントの機能性を向上させるために、教育制度等に関する専門知識を有する職員を配置する。(教務課・人事課)	
② 事務職員の適切な人事評価制度を構築する。(人事課)	
(4) 教員の職能開発(FD活動等 ファカルティ・ディベロップメント)	
① 教育力・授業力の向上を図るため、音楽分野の特性に応じた全学的なFD活動を実施する。(教務課)	
② 教員のFDに関する理解を深め、教育の質の向上に資するため、公開レッスン・教員相互の授業視察等を実施する。(教務課)	
(5) 教職員の研修(SD活動等 スタッフ・ディベロップメント)	
① 大学運営に関わる教職員の資質・能力の向上に資するため、組織的なSD活動を推進する。(人事課)	

項目	中期計画にかかる取組内容				
(1)-①	2022年度に「教学マネジメント会議」を設置し、主に下記の事項について学長(2022年度は学長代行)の諮問に基づき意見交換を行った。 ○学修成果の可視化と教育改善へのフィードバックの方法 ○カリキュラム改編 ○教育目的および三ポリシーの再検討				
	自己評価	5	4	3	2
(2)-①	学長のリーダーシップを支える副学長と各部会主任・副主任の教学組織における役割を明確にすると共に、関連諸規程改正の検討を行った。				
	自己評価	5	4	3	2
(2)-②	2022年度に「東京音楽大学専任教員給与規程」を制定し、専任教員について、前年度の教育・研究・学務の成果から基本給を査定する評価制度を導入するこ				

	ととし、予定通り、2023 年度から「専任教員給与規程」を施行・運用開始した。					
	自己評価	5	4	3	2	1
(3)-①	2022 年度にキャリア正職員の採用を行い、他大学における事務経験者 2 名を学務部教務課に配置した。 教育制度等に関する専門知識を有する職員の育成を支援するため、2023 年度に「学校法人東京音楽大学教職員研修規程」を制定した。					
	自己評価	5	4	3	2	1
(3)-②	夏期・冬期・年度末に実施中の専任事務職員人事考課について整理し、規程化することを検討している。					
	自己評価	5	4	3	2	1
(4)-①	FD 委員会が実施する授業評価アンケートについて、これまで授業科目の種類別に 3 分割して実施していたが、2022 年度より全授業科目を対象に一括実施した。その他、学修行動調査アンケートを実施した。 FD 研修会実施実績は以下の通りである。 2022 年度 「厳格な成績評価」について 2023 年度 2024 年度カリキュラム改編（特に外国語科目・オープン科目）に関する説明 2023 年度教養演習成果報告					
	自己評価	5	4	3	2	1
(4)-②	公開レッスン・教員相互の授業視察等の実施に向けて、FD 委員会で検討中である。					
	自己評価	5	4	3	2	1
(5)-①	SD 研修会の実施実績は以下の通りである。 2022 年度 第 1 回：SDGs の取り組みについて／研究活動支援について 第 2 回：本学の進路の状況とキャリア支援センターの支援について 就職活動の現状と、企業が求める人材とは 2023 年度 新専攻「MBT」と拡充専攻「音楽文化教育」の教育内容・実技レッスンの扱いについて 学内における「原議書」の取扱について					
	自己評価	5	4	3	2	1

○自己点検・評価委員会意見

他の教員の教育活動について情報共有し、自らの教育方法等の見直しに繋げるための機会を設定することを提案する。

規程集を、特に学外から閲覧できるようにしていただきたい。

厳正な成績評価が求められているが、その意義や方法等について、全教職員が理解を深めていく必要があり、研修等を実施していただきたい。

8. 地域連携・社会貢献活動

中期計画
<p>(1) 地域連携・社会貢献活動の推進</p> <p>① 音楽文化の振興と地域・社会の活性化に向け、本学が「社会に開かれた大学」として教育研究の成果を広く社会に提供する。(社会連携課)</p> <p>② 豊島区並びに目黒区(上目黒一丁目地区プロジェクトまちづくり計画)との地域連携活動を推進する。(社会連携課)</p> <p>③ 地域連携・社会貢献活動に資するための学内体制の連携・強化を図る。(社会連携課・総務課・人事課)</p> <p>(2) 生涯学習機会の提供</p> <p>① 文化的・知的な開かれた学習拠点として、社会人等に生涯学習の機会を提供していく。(事業課)</p> <p>(3) 早期音楽教育の推進</p> <p>① 本学の特色を反映した附属音楽教室、国際青少年オーケストラにより、早期音楽教育の普及・推進を図る。(事業課)</p> <p>(4) 附属オーケストラ・アカデミーによる音楽家育成</p> <p>① 附属オーケストラ・アカデミーを開設し、高度な演奏能力を備えた音楽家(職業オーケストラ奏者)育成の取組みを推進する。(事業課)</p>

項目	中期計画にかかる取組内容
(1)-①	<p>下記のような取組を通じて、本学の教育研究の成果を広く社会に提供している。</p> <p><b>【自治体等との地域連携】</b>                      キャンパスが立地する目黒区、豊島区との連携した演奏会等の実施                      埼玉県北本市との提携コンサートの実施                      地域への音楽普及のために、本学が開催する各種イベントへの参加促進活動の展開</p> <p><b>【社会教育講座等】</b>                      民族音楽研究所における社会人対象講座として、あらたに民族楽器によるアンサンブル講座を開催</p> <p><b>【演奏依頼の受付】</b>                      地域社会を中心に、本学学生あるいはTCMオーケストラ・アカデミーに対する演奏依頼の受付を開始。2023年度は学生による演奏6件、TCMオーケストラ・アカデミーによる演奏5件であった。</p>
自己評価	5      4      3      2      1

(1)-②	<p><b>【豊島区】</b> 「豊島区と区内大学との懇談会」へ出席し、これまでの実績を報告した。 豊島区提携演奏会・講座として、「区民ひろば回遊音楽キャラバン」、「庁舎ランチタイムコンサート」、「としまコミュニティ大学」、「ACT Project ミニコンサート」を実施した。</p> <p><b>【目黒区】</b> 目黒区と「学校法人東京音楽大学と目黒区との連携・協力に関する基本協定書」を締結し、めぐろ子ども音楽祭への協力や区内学校へのアウトリーチ等について検討することとなった。 その他、地域住民の「芸術祭」への協賛、参加やまちづくりに関する会議の学生の参加など、地域連携活動を推進している。</p>						
	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="370 846 587 891">自己評価</td> <td data-bbox="587 846 778 891">5</td> <td data-bbox="778 846 954 891">4</td> <td data-bbox="954 846 1129 891">3</td> <td data-bbox="1129 846 1305 891">2</td> <td data-bbox="1305 846 1361 891">1</td> </tr> </table>	自己評価	5	4	3	2	1
自己評価	5	4	3	2	1		
(1)-③	<p>演奏委員会委員に、社会連携部長、社会連携課長を加え、本学の地域連携・社会貢献活動における演奏活動の更なる連携・強化を図った。 「東京音楽大学 SDGs 推進センター」を設置し、地域連携・社会貢献活動に関わる施策が含まれる13の「SDGs 推進施策」を公表した。これら施策の実施状況などを踏まえ、センター員による会議において、学内関係部署との連携強化の点検評価を行っている。</p>						
	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="370 1234 587 1279">自己評価</td> <td data-bbox="587 1234 778 1279">5</td> <td data-bbox="778 1234 954 1279">4</td> <td data-bbox="954 1234 1129 1279">3</td> <td data-bbox="1129 1234 1305 1279">2</td> <td data-bbox="1305 1234 1361 1279">1</td> </tr> </table>	自己評価	5	4	3	2	1
自己評価	5	4	3	2	1		
(2)-①	<p>指揮研修講座、社会人ピアノ個人レッスン、民族音楽研究所における社会人講座（ガムラン講座、社会人特別講座、アンサンブル等講座）、社会人公開講座など、社会人等を対象とした多様な生涯学習の機会を提供している。 また、ピアノ以外の社会人を対象とした楽器レッスンの開講に向けて、実施方法等について検討、整理している。</p>						
	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="370 1525 587 1570">自己評価</td> <td data-bbox="587 1525 778 1570">5</td> <td data-bbox="778 1525 954 1570">4</td> <td data-bbox="954 1525 1129 1570">3</td> <td data-bbox="1129 1525 1305 1570">2</td> <td data-bbox="1305 1525 1361 1570">1</td> </tr> </table>	自己評価	5	4	3	2	1
自己評価	5	4	3	2	1		
(3)-①	<p><b>【付属音楽教室】</b> 将来構想に関する課題を整理し、中長期計画立案の準備をした。また、戦略的な運営のために、「東京音楽大学付属音楽教室規程」を改正したうえで、事務局に音楽教室担当課長を配置し事務支援の強化を図った。 ホームページのリニューアルや臨時入室試験の導入により、2023年度音楽教室生は昨年度比で18%増となった。 中目黒・代官山キャンパスでの展開については、個人レッスンを実施しているが、授業実施については更に検討することとしている。</p>						

	<p>【東京音楽大学国際青少年オーケストラ】</p> <p>2022年5月及び12月にコンサートを開催し、多くの聴衆を集めたほか、オーケストラ参加者から本学への入学者を得ることができた。しかしながら、2023年4月のコンサートをもって、しばらくの間活動休止となった。</p>
自己評価	5      4      3      2      1
(4)-①	<p>2022年4月開設の東京音楽大学附属オーケストラ・アカデミーは、オーケストラ奏者として国内外で活躍することができる力を身につけ、高度な演奏能力を持つ音楽家を育成することを目的としたオーケストラ奏者養成機関である。</p> <p>1期生対象のアンケート調査に基づき、翌年度からオーケストラスタディによる更なる指導の充実、エキストラ受託の促進、受託コンサートの拡充等の改善方策について検討したほか、SNSを中心とした広報活動の強化を図った。</p> <p>2年目となる2023年度は、①受講3年目のアカデミー生を対象とした奨学金制度の創設、②アカデミー生の活躍の場の確保、③キャリアアップセミナーの開催等、④依頼演奏会等による活動の場の拡大等の活動強化策をまとめた。</p> <p>アカデミー生募集活動として、ホームページのリニューアル、演奏会でのロールアップバナーの設置を行ったほか、名称を「TCMオーケストラ・アカデミー」に変更した。</p>
自己評価	5      4      3      2      1

○自己点検・評価委員会意見

行われている活動の一つひとつは魅力的ではあるが、基本的に「関心があって来てくれた人」のためのものか、「限定されたところに向いて行って、一方的な（双方向ではない）コミュニケーションに留まっている」という内容が多いように見受けられる。

より不特定多数の人に貢献できる活動について検討いただきたい。